

対象年度		令和 6年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート											
事務事業名		文化財保護事業						予算事業名		文化財保護事業費					
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	文化財保護法、茨城県文化財保護条例、結城 根拠法令 城市文化財保護条例						
				10	05	06	20	経常経費							
総合計画体系		未来を担う子どもと 生き生きとした市民を育む地域を目指そう						事業の区分		主要事業					
		生涯学習環境の充実と市民が誇れる芸術文化の創造													
		郷土の文化財の保存と活用						担当課係等		生涯学習課 文化係					
事業期間		継続 (年度～ 年度)													
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
文化財保護活用への指導・調査により価値を判断し、応じた保護措置 を取ることにより、後世に歴史資産を伝える。併せて、本市の地域資 源としての活用を検討・実施することにより、市民や観光客等の文化 財に関する見識が広められ、将来にわたり保護活用が推進される。								文化財保護法や県条例、市条例により、文化財保護の方針・取扱いが 定められており、法令に基づき事業を行っている。また、文化財は他 自治体においても、重要な観光資産として保護活用が行われている。							
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】							
○文化財全般に係る調査・保護・管理・公開 ○文化財保護審議会の開催・運営 ○市指定文化財の保存・伝承及び民間が所有する指定文化財等の修復 や整備に対する補助金交付 ○文化財保全・振興に係る各種協議会への参加・情報交換 文化財関 係協議会参加 ○国重要無形文化財及びユネスコ無形文化遺産「結城紬」関連団体へ の支援・周知啓発の実施								・文化財全般（史跡、有形・無形文化財等） ・文化財保全振興に係る団体及び文化財の所有者 ・市民や観光客							
								【事業をとりまく環境の変化】							
								社会環境や生活様式の多様化、文化財への認識低下により、多くの文 化財が滅失・散逸の危機にある。文化財は、本市の歴史を紐解くうえ で重要な資源であるが、保全・維持に要する経費は高額で、法的な制 約も多く、本市のみならず、十分な保護措置が取られないケースが多 く存在する。							
【令和 6年度 事業内容】				【令和 7年度 事業内容】				【令和 8年度 事業内容】							
○文化財包蔵地試掘調査の実施 ○史跡の維持管理・整備 ○市指定文化財等補助 ○協議会負担金、結城紬関係団体補助 ○武井地区畑地帯総合整備事業に伴う整理 調査				○文化財包蔵地試掘調査の実施 ○史跡の維持管理・整備 ○市指定文化財等補助 ○協議会負担金、結城紬関係団体補助 ○武井地区畑地帯総合整備事業に伴う整理 調査・報告書刊行				○文化財包蔵地試掘調査の実施 ○史跡の維持管理・整備 ○市指定文化財等補助 ○協議会負担金、結城紬関係団体補助							
■事業費															
				R04年度		R05年度									
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0								
	県		支	出	金	54,450	57,134								
	地		方		債	0	8,400								
	そ		の		他	0	0								
	一		般	財	源	8,223	7,831								
歳 入 計 (千 円)				62,673		73,365									
歳 出 内 訳	節 (番 号 + 名 称)			金額 (千円)		金額 (千円)									
	01	報酬		27		60									
	07	報償費		119		60									
	08	旅費		108		201									
	10	需用費		346		850									
	11	役務費		62		70									
	12	委託料		59,608		61,447									
	14	工事請負費		1,870		10,140									
	18	負担金補助及び交付金		526		537									
	26	公課費		7		0									
	歳 出 計 (千 円) (A)				62,673		73,365								
伸 び 率 (%)						17.05									
備 考															

令和 4年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R04年度	R05年度	R06年度
活動 指標	文化財の調査・歴史的資料の収集件数	件	目標	1.00	1.00	1.00
	市内に残る文化財の調査及び歴史的資料の収集を行い、その歴史的価値を解明し保存・伝承を図る。（目標・実績値は文化財調査件数）		実績	2.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	指定文化財・国登録有形文化財件数	件	目標	141.00	140.00	141.00
	文化財指定及び登録を行い、多くの文化財を守り地域の資産として活かす。また、文化財の愛護意識高揚を図る。		実績	139.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	個人所有の文化財を含め、行政が率先して保存、伝承及び活用に努める責任がある。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	行政が主体となることは当然であるが、民間との連携を図りながら、体制整備や周知啓発を行う必要がある。
	手段の妥当性	B どちらも言えない	法的な取り扱いが定められており、今後、関係機関との協力、連携体制を築きながら、最善の方法を検討していく必要がある。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらも言えない	文化財の取り扱いには専門的な知識や技術が必要であるため、調査や修復等には多額の費用を要する。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	市内に残された歴史的史料や建造物等を、調査、収集、保存し、地域資源として活用することは、市民のみならず、国民全体の利益となる。
有効性	成果向上の余地	B どちらも言えない	歴史資料館が未設置であるため、本市の歴史や文化財を広く市民に公開、周知する機会が限られている。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	他自治体と比べても、指定文化財の数は多く、保存、伝承が図られている。ただし、資料館等が未設置の現状の中で、今後、広く公開し、活用する方法を構築していくことが課題である。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
文化財の調査、収集は順調に進められており、観光資源や学習教材として幅広く活用されている。ただし、文化財の多くが個人所有であり、貴重な文化財であっても指定や調査が行えない場合もあるとともに、指定を受けると法的な規制や維持管理や修復等の費用負担が所有者の重荷になることもある。また、資料館等が未設置であるため、本市の歴史の周知や、文化財の保管、公開が十分に行われていない。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
本市の優れた歴史や文化財を、市内外に広く公開し、理解していただくため、早期に歴史資料館等を整備する必要がある。また、個人所有の文化財の維持管理や修復等に対する財政負担の軽減を図るためにも、補助金等を含め、支援策の拡充を図っていく。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☒ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
方向性の具体的内容 本市には歴史的建造物や史跡のほか、数多くの文化財が残されている。しかし、これらを展示公開する施設が未整備であるとともに、後世に伝えていくためにも、歴史資料館等の設置が必要である。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 財政状況と可能な限り調和を図りながら進める。